



## センターにおける モンゴル系研究者の交流

東北アジア研究センターでは、モンゴル研究にかかわる学術交流を重ね、既にモンゴル科学アカデミーや国立科学技術大学と交流協定を締結してきたが、昨年（2000年）から今年（2001年）にかけても、モンゴル系研究者の交流がめざましくみられた。モンゴル系の民族はモンゴル国のみならず、ひろくロシア、中国にまたがって居住している。主な居住地域としては、1. モンゴル国、2. 中国内モンゴル自治区、3. ロシア連邦ブリヤート共和国（バイカル湖の沿岸）、4. ロシア連邦カルムイク共和国（カスピ海の北西岸）を挙げることができる。

昨年10月から今年9月にかけて東北アジア研究センターで研究を行った、あるいは研究を続けている文科系の客員研究者は6人にのぼるが、センターでこれらの4つの地域のすべてから客員研究員を迎えたことは特筆に値しよう。とりわけ今年の5月中旬から9月中旬までの期間に、客員教授のエセノウァ氏（カルムイク国立大学教授・言語学）、非常勤研究員のアルタンザヤ氏（モンゴル国立師範大学講師・歴史学）、客員研究員のボロノエヴァ氏（ブリヤート国立大学講師・人類学）、フレルバートル氏（内モンゴル・言語学）といった、上記4地域の研究者が同じ時期にセンターに滞在して、自らの言語・歴史・文化を研究するという希有な出会いが実現



センターのモンゴル研究者

した。

「これだけでも国際学会ができる」という機会を利用して、岡助教授の発案の元に「新しいモンゴル研究の地平」と題するシンポジウムがエセノウァ教授の帰国する直前の9月11日行われた（別記事を参照）。

このほか客員教授としては、1997～98年にアカデミー歴史研究所長（当時）アユンダイ・オチル教授（歴史学）、1998～99年には科学技術大学オチル・ゲレル教授（地質学）が既に在任したが、この一年でも上記エセノウァ教授のほかに昨年末にチョイジンジャブ氏（内モンゴル大学教授・言語学）、今年9月からはエンフバト氏（内モンゴル大学教授・言語学）が滞在している。エンフバト氏は中国興安嶺に居住するダグル（達斡爾）族の出身である。ダグル族は人口約10万人、モンゴル系の少数民族である。またセンターの専任教官としては、環境問題を専門とする内モンゴル出身のスエー助手がいる。

（栗林 均）

## 編集 後記

センターも創設5年目となり、多様な研究活動が展開されています。本号では、研究の成果として刊行された出版物の紹介を盛り込みました。本号の編集は、編集委員長出張のため、岡が代理を勤めたものです。執筆者の皆様のご協力に感謝致します。（岡 洋樹）

東北大学 東北アジア研究センター ニューズレター 第11号 2001年10月31日発行  
発行 東北大学東北アジア研究センター 編集 東北アジア研究センター ニューズレター編集委員会

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 東北大学東北アジア研究センター  
PHONE/FAX 022-217-6010  
<http://www.cneas.tohoku.ac.jp> E-mail :nletter@cneas.tohoku.ac.jp